



ドラレコ・デジタコを 活用した乗務員指導

あおり運転のニュースで、広く知られるようになったドライブレコーダー（ドラレコ）ですが、西鉄運輸側では2017年3月までに全車両（トラック）に導入し、事故分析及び乗務員の指導に活用しています。以前は、乗務員への聞き取りを元に事故分析していましたが、事故発生時の記憶は正確でないことが多く、手間がかかっていま



岡本准教授 講話風景



乗務員指導風景

貨物専門部会 西鉄運輸株

お客さまへの“あんぜん”“あんしん”を提供するとともに、従業員の幸せの実現のために日々安全指導に取り組んでいます。

た。現在はドラレコの映像を活用することで、分析が容易になりました。

また、乗務員が理解しやすいよう、乗務員と一緒に映像を確認しながら、「前車との距離が近くないか?」「車線変更のタイミングが早くないか?」といった指導を行っています。

長時間運転抑制のために

長時間労働になりがちなトラック乗務員の交通事故を防止するため、運転時間や休憩時間等には厳しい安全基準が設けられています。特に、長時間運転は大きな事故につながる可能性が高いため、休憩が十分に取れない乗務員を指導する必要があります。

そこでデジタルタコグラフ（デジタコ）のデータが記録された安全運転日報や指導書等を活用し、日々運行



指導資料(デジタコ記録-指導書)

安全基準の一例

①4時間の運転時間に対し30分の休憩が必要 ②休憩の最低時間は10分

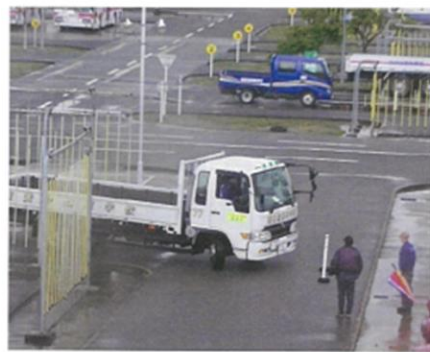
NG	運転 1時間15分	休憩 5分	運転 1時間10分	休憩 5分	運転 1時間35分	休憩 20分
	OK	運転 2時間	休憩 10分	運転 1時間	休憩 10分	運転 1時間

管理者が拘束時間や運転時間、速度、運転操作などを確認、速度オーバーや長時間運転、急発進、急停車等の疑われる記録があれば、乗務員とその運行記録を確認した上で、指導を行っています。

運行管理者(補助者)の 指導方法の改善

東京から九州まで営業所がある中で、以前は営業所により指導方法等も異なっていました。現在は専門機関である西鉄自動車学校で教習を行い、乗務員の運転の癖や基本動作を確認しています。

また乗務員だけでなく、運行管理者の指導力を強化し、各営業所での安全指導に活かすため、関西大学の岡本准教授より「ヒヤリハット報告およびドラレコ映像を活用した安全指導法」と題して、講話いただきました。



西鉄自動車学校研修風景